

<p>ひとことアピール</p> <p>前号に引き続き教育支援のお願いです。小学生、ハイスクールに入学の子どもたちのプロフィールが届きました。5人の子どもについてまだ支援者が決まっています。小学生は月 500 円、ハイスクール生徒の場合は 1500 円でお願ひしています。お問い合わせお待ちしております。</p>	 <p>2010 年 7 月 30 日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS)</p> <p>本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933 E-mail: hands-ty@r07.itscom.net http://homepage3.nifty.com/hands/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

医療・教育分野における格差と自立のかたち

— ブラクール校の職員会議 —

6 月 10 日から 1 週間、事業地域を回ってきました。ゴムノキ事業モニターのため滞在していたブラクールでは、年度初めの職員会議に同席しました。

最初の議題は、小学校 1 年からハイスクール 4 年まで 10 名の担任の決定です。続いて先生方の給与に関わる予算の検討です。ブラクール校を運営する住民組織 MTBCAI (Manobo & T'boli Blakul Community Associastion, Inc.) のサンクパン理事長他住民が見守る中、先生たちはじっくり議論を重ねました。



ハイスクール生徒数に応じて交付される政府補助金が 28 万ペソ、海外からの支援がアメリカのサンタクルスと

HANDS からの合計 43 万ペソ。これに父母協力金などを加えた年 72 万ペソ(約 140 万円)が全収入です。ここから教材費や備品費などを差し引いて 10 名で割ると、教師 1 人の平均給与は前年並みの月額 4000 ペソとなりました。公立学校の半分にもなりません。裏庭に果樹を植え、ヤギ 1 匹を 13 匹に増やしたアナベル先生一家のように、工夫次第で何とか生活できる金額です。3 時間近いこの会議の間に、PFP スタッフのロニーさん、ニックさんが発言したのは 2 回のみでした。

MTBCAI が設立されて 15 年。このように学校運営に PFP が関与することは少なくなりました。教師の半数以上は、HANDS の奨学金でカレッジを終えたマノボやティボリの青年です。人材面では着実に自立が進んでいます。

資金面ですが、5 月末の HANDS 総会で承認されたブラクール支援金は年 33 万円です。2002 年に FOT の会から引き継いだ時の 60 万円から 27 万円の減となっています。学校農園収入や授業料などの自主財源増加に期待しての漸減ですが、自主財源はまだ少なく、減額分を補っているのは数年前に始まった政府補助金です。

教育には費用がかかりますし、それは政府の責任でもあります。ブラクールで住民が担ってきた中等教育が評価され、補助金が交付されるようになったのは、教育のあるべき姿に一歩近づいたと言えます。

— 地域保健活動を支える自主財源確保事業 —

教育と同じく保健医療事業も費用がかかります。これも政府の責任で行うべき分野ですが、モロの貧困層に対する医療サービスは皆無に近く、私たちは PIHS を通じて保健ボランティア育成や妊産婦検診、ハーブ薬研修等をしてきました。

支援なしでも最小限の活動を維持できるようにと、今年は自主財源確保事業を 2 か所で実施しています。その一つ、パロングス村の「耕運機レンタル事業」を視察しました。ボランティアのダンさんが、死の直前まで育成に奔走した村の健康組合のメンバーに彼女の遺志は引き継がれ、賃貸し収益をあてて母子保健研修が行われていました。

帰国後 PIHS 代表ナプサさんからメールが届きました。妊産婦へ出生届を提出するよう指導するなど必要な研修は限りなくあるがスタッフの手当てが十分出せず、現場を離れるのではないかと不安だと書いてありました。村の保健師でない NGO スタッフに政府補助はありません。PIHS スタッフの給与だけは、当面何らかの形で支える必要があります。